

2021年7月  
(令和3年7月)  
大垣共立銀行

# OKB 創立125周年

## 「地域とともに」「お客さま目線」の追求

OKB大垣共立銀行は今年3月、創立125周年を迎えた。「地域に愛され、親しまれ、信頼されるOKB」を理念とし、創立以来、地域とともに歩み続け顧客目線のサービスを追求してきたOKB。時代や金融機関を取り巻く環境がどれだけ変わろうとも、その思いは変わらない。

大垣共立銀行は、1896年に第百二十九国立銀行の業務を継承する形で誕生した。社名の「共立」は、「土農工商が共に地域発展を目指す」意味が込められている。その思いはしっかりと受け継がれており、今でもOKBのDNAは「地域とともに」「お客さま目線」だ。

明治、大正、昭和、平成、そして令和と、時代が進むにつれてOKBのサービスも拡充してきた。1993年に就任した土屋嶠第11代頭取(当時)は、護送船団方式と呼ばれた銀行業界の中で

「銀行はサービス業」を掲げ、翌年には今では当たり前となったATM(現金自動預払機)の年中無休稼働「エブリデーバンキング」を国内の金融機関で初めて開始。以降、移動店舗サービスやドライブスルーATM・店舗、手のひら認証ATM「ピット」など、次々と革新的なサービスを開始した。すべては顧客のためになりたいとの思いから誕生したものだ。



▲大正初期の俵町本店



手のひらソリューション

### 企業ファイランソロピィ賞 受賞

同賞は、社会の課題解決のために会社の人材やノウハウ、技術などの経営資源を有機的、持続的に活用した社会貢献活動を顕彰しようとする2003年に創設。革新性や波及性などの5項目を基準に毎年選定される。

大垣共立銀行の手のひらソリューションが昨年12月、日本ファイランソロピィ協会主催の「第18回 企業ファイランソロピィ大賞」で特別賞を受賞した。

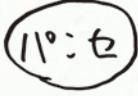
「手のひらソリューション」は、「地域とともに」「お客さま目線」を具現化し、課題解決に資する取り組みであるとして、「企業ファイランソロピィ賞」安心を届ける手のひら賞」を受賞した。(関連記事は5面)



### ことしの紙面

- 2 総合
  - 3 店舗
  - 4 ソリューション
  - 5 フィンテック
  - 7 土屋会長永眠
- 新中期経営計画を策定  
異業種とのコラボ店舗  
地域商社機能を拡充  
OKBアプリに追加機能  
土屋会長の軌跡

土屋頭取は2019年6月に会長となった後も顧客目線のサービスを追求すべく先頭を走り続けた。昨年11月、74歳で亡くなったが、OKBに根付いたDNAは変わらない。時代が大きく変化する中、そのDNAを大切にしつつOKBは次のステージへ進む。(関連記事は7面)



昨年、この欄で新型コロナウイルスの猛威について触れた。当時はまさかここまで長い間、世界中でまん延し続けるとは思わなかったというのが本音だ。少し落ち着いてはまた、感染が拡大する。ワクチンができたかと思えば、行き渡る前に変異株が流行する。まさに人類とウイルスとの戦いであり、人類にとっては挑戦の連続だ。金融業界も挑戦が続いている。マイナス金利、異業種の参入、フィンテックの台頭、そしてこのコロナ禍。従来からの利益や収益を得る形だけでは厳しいのか、たまに銀行の報道で、「脱・銀行」という字を見かける。少し変わった時代なのかもしれない。OKB大垣共立銀行は、それをうたってしまわなかつた。多くの斬新なサービス、社員の異業種研修制度、OKBブランドの展開。「本場に顧客が必要なサービスは何も金融に限らない」と「地域とともに」「お客さま目線」をキーワードに「脱・銀行」を目指してきた。それはまさに挑戦の連続。周囲の反対などがありながらも、顧客の真に必要なサービスを考え、行動してきたのがOKBだ。時代が変わり、環境が変わり、OKBが変わる。顧客目線だからこそ成し得る「脱・銀行」を目指し、今年創立125周年を迎えたOKBの挑戦はこれからも続いていく。

# 新中期経営計画を策定

大垣共立

OKB大垣共立銀行は今年4月、2024年3月までの3年間を計画期間とする新たな中期経営計画「Let's Do It!〜社員輝き 地域伸びゆく〜」を策定した。前計画「一歩前へ」で基本路線としていたコンサルティング型ビジネスモデルを確立し、実行する。

## Let's Do It!

～社員輝き 地域伸びゆく～

目指す姿は「お客さまの共感と感動を呼び、地域に必要なとされる企業グループ」。基本戦略である「コンサルティング型ビジネスモデルの強化」、「お客さまとの接点強化」、「業務プロセス改革」の3つを柱として、24年3月期

に連結で当期純利益95億円以上やコアOHR(コア業務粗利益に占める経費割合)を75%台にすることなどを目標値として掲げる。

マイナス金利、異業種からの銀行業参入、フィンテックの台頭など、金融機関を取り

巻く環境が厳しいと言われて久しいが、加えて新型コロナウイルスの影響もあり、その厳しさは増している。

これまでも「地域とともに」お客さま目線」を大切にしてきたOKB。今回の計画では「まちの

かかりつけ金融機関」として、金融・非金融問わず顧客から何でも相談してもらえる体制を強化する。OKBは「一人ひとりのお客さまに付加価値の高いサービスをお届けしたい」としている。

OKBC

## ベトナム現地法人

四国銀行とビジネスマッチング契約

大垣共立銀行のベトナム現地法人子会社「OKBコンサルティングベトナム」(OKBC)は今年2月、四国銀行とビジネスマッチング契約を締結した。地方銀行同士の新しい連携モデルとして、地域経済の活性化につなげたい構えだ。

大垣共立銀行は2012年3月に全国の地方銀行で初めてベトナム南部のホーチミン市に「ホーチミン駐在員事務所」を開設し、17年には北部のハノイ市にコンサルティング会社「OKBC」を設立。20年にはホーチミン駐在員事務所を発展的に廃止し、OKBCホーチミン支社を開設した。

近年のベトナムの経済発展とともに、日系企業の同地への進出理由やニーズも多岐にわたっており、それにこたえるべくOKBは地方銀行で唯一、ハノイとホーチミン

(5月17日、地名は支店長)本店営業部長の委嘱を解く 常務森田裕三▽海外事業推進部長の委嘱を解く 統括執行役員吉成広行▽総合企画部長(OKB総研社長) 同五藤義徳▽本店営業部長(人事部) 同後藤勝利▽総合企画部長の委嘱を解く 同寛雅樹▽執行役員人事部部長(経営管理部長兼経営管理部コンプライアンス統轄センター所長) 小池剛▽関連事業部部長(執行役員東京) 青木義実▽執行役員東京(法人営業部次長) 松岡庸介▽法人営業部長兼海外事業推進部長(法人営業部長) 執行役員小川真一

## 障がい者雇用で評価

OKBパートナーズ

大垣共立銀行の文書作成や書類などの保管・受発送業務などを主に営む関連会社「OKBパートナーズ」は昨年10月、障がい者雇用の促進に努める優良中小事業主を認定する「もにす認定制度」において、全国で初めて認定を取得した。全9業務に障がいのある社員を配置するなど障がい者の雇用者数にこだわらただけでなく、「いかに活躍してもらうか」の質も大切にしている。



▲認定通知書を受け取ったOKBパートナーズ 可児社長(右)

とともに、先進的な取り組みを進めている事業主が社会的な利点を受けられるよう、厚生労働省が新設した制度で、当時同社を含め3社が全国初で認定を取得した。

同社が目指すのは、障がい者雇用における「地域のロールモデル」だ。全9業務で、障がいのある社員が生き生きと活躍しているため、地域事業

大垣共立

## 遺贈寄付に関する協定

25自治体と

大垣共立銀行は2019年12月に桑名市と締結して以降、東海3県(岐阜県、愛知県、三重県)の自治体などとの「遺贈寄付に関する協定」の締結を進めている。相続対

策や資産承継などの高まるニーズにこたえるべく、これまで締結した自治体は桑名市の他に大垣市や各務原市、小牧市など25に上る。同協定では、遺贈寄付

の南北2拠点体制を構築。ベトナム全土でのコンサルティングサービスを提供している。今回の四国銀行との契約締結により、OKBCはベトナムでのビジネスを検討している四国銀の顧客に対してコンサルティング業務の受託が可能となり、四国銀は顧客の同地でのビジネスサポートをOKBCに委託することで、顧客に対するソリューションを強化できる。

希望者をOKBと自治体などが相互で紹介しあうことで、その遺志を円滑に実現できる体制を構築。OKBは19年4月から銀行本体で信託業務を取り扱うことで培ってきた知見やノウハウを生かして、顧客に寄り添った提案を行う。締結先によっては今後、両者で連携してセミナーの開催などを企画する予定だ。

常務(統括執行役員) 野上匡行▽同(同) 寛雅樹▽常勤監査役(秘書室付部長) 押谷俊男▽統括執行役員金森靖 退任 常務森田裕三、常勤監査役早崎進、統括執行役員吉成広行

※森田氏は正和商事社長、早崎氏は正和商事監査役、吉成氏は共友リース社長に就任

## 会 社 人 事

大垣共立銀行

# 地域特性に合わせた店舗

## 顧客との接点として

大垣共立

年中無休店舗、移動店舗、ドライブスルー店舗、コンビニ風店舗……。これまでさまざまな形態の店舗を展開してきたOKB大垣共立銀行。フィンテックの台頭やコロナ禍で、銀行店舗のあり方が見直される一方、OKBは新しい挑戦をしながら顧客との接点である店舗を大切にしている。

## 異業種とのコラボ店舗

### ニュータウン支店



▲「OKBブランタン高蔵寺」オープニングセレモニーの様子

大垣共立銀行は昨年9月、春日井市高蔵寺エリアのニュータウン特別出張所を新築リニューアルし、ニュータウン支店として移転オープンした。高蔵寺ニュータウンのエリア特性を考慮し、シニア世代を中心とした顧客が来店しやすいよう、喫茶店、介護関連、家事代



▲ニュータウン支店（「OKBブランタン高蔵寺」2階）

行とコラボレーション。そのテナントとともに複合施設「OKBブランタン高蔵寺」に入居した。自然をイメージした内装で、落ち着いた印象を帯び、ニュータウン支店。春日井市の単独指定金融機関としてOKBと市は深いつながりがあるが、同支店移転オープンをきっかけに、顧客との関係性をさらに深めていきたい構えだ。

### あかいけ支店も

フィットネスジム、女性専用コインランドリーのテナントとコラボレーションしているのはあかいけ支店。日進市赤池エリアで昨年6月にオープンし、複合施設「OKBブランタンあかいけ」に入居している。人口増加が続く再開発エリアで近隣に大型商業施設があり、休日も賑わ



▲OKBブランタンあかいけ

う地域特性に合わせて、同支店は毎週水曜日と年末年始以外は窓口営業している。他にも個人取引に特化したり、窓口専用のATM（現金自動預払機）を設置し待ち時間を短縮したりして、顧客が気軽に利用できる体制を構築している。

### 余剰スペースを活用

#### OKBポップアップ スポット 納屋橋

大垣共立銀行の「テラッセ 納屋橋支店」では、ATM（現金自動預払機）前のフリースペースを顧客の商品の展示場などとして活用している。



▲「OKBポップアップスポット 納屋橋」展示販売会の様子

同スペースの名称は「OKBポップアップスポット 納屋橋」。これまで、ロードバイクや腕時計、小型電動車など、地域企業と連携した展示会を開催してきた。展示会として利用した顧客に喜んでもらうだけでなく、OKBとしては来店誘致につながっている。

### OKBコミュニティプラザ

大垣共立銀行は2018年から、一部店舗の会議室やロビーを有料で貸し出すサービスとして



▲OKBコミュニティプラザ 本山

「OKBコミュニティプラザ」を設置している。設置しているのは10店舗。サークルや同好会などの団体が会合やイベントに利用できる。OKBの口座を保有していれば個人や法人を問わず誰でも申し込みでき、条件を満たせば割引での利用も可能だ。利用には事前の申し込みが必要。

### OKBコミュニティプラザ一覧

名称	設置店舗
OKBコミュニティプラザ大垣駅	大垣駅前支店
OKBコミュニティプラザ穂積	穂積支店
OKBコミュニティプラザラシック	名古屋支店
OKBコミュニティプラザ大阪	大阪支店
OKBコミュニティプラザ高蔵寺	ニュータウン支店
OKBコミュニティプラザ有松	有松支店
OKBコミュニティプラザ本山	本山支店
OKBコミュニティプラザ本巣	真正支店
OKBコミュニティプラザ岡崎	岡崎支店
OKBコミュニティプラザ豊橋	豊橋支店

### OKBサービスプラザ春日井

大垣共立銀行は昨年11月、如意申出張所跡地に「OKBサービスプラザ春日井」をオープンした。「OKBサービスプラザ春日井」は現金の入出金や両替などの窓口業務に特化した店舗。事務手続きに精通した社員が対応することで、顧客の待ち時間を短縮させる。また両替などの手数料は、サブスクリプション型と呼ばれる定額制を採用している。



▲如意申出張所跡地にオープンした「OKBサービスプラザ春日井」

## 出張所跡地に新たな店舗形態

### OKBそうだん広場

大垣共立銀行は今年4月から7月にかけて、相談拠点「OKBそうだん広場」を4カ所にオープンした。何でも相談できる「よろず屋」的な役割を担うことで、顧客ニーズに寄り添う。オープンしたのは荒尾、長松、星川、穂積北の4出張所の跡地。顧客の資産運用やローンなどさまざまな相談を受ける。その相談に対して、経験豊かなOKBの社員がOKBグループのネットワークを活用した最適な提案などを行い、解決に向けたサポートをする。もともと出張所だった利点を生かし、余剰スペースを活用してセミナーなどのイベントも開催する。地域の「よろず屋」として、金融の枠にとらわれないサービスを顧客に提供していく。



▲相談スペース（OKBそうだん広場 荒尾）



▲多目的スペース（OKBそうだん広場 荒尾）

# OKB 地域商社機能を拡充

## 顧客の販路拡大などをサポート

OKB大垣共立銀行は、地域商社機能による取り組みを拡大させている。顧客ニーズに基づき販路拡大やブランディングをサポートすることで、地域事業者の域外における販路開拓や付加価値向上に貢献。OKBとしてはプレゼンス向上を図っている。

「地域とともに」「お客さま目線」を第一に、大垣共立銀行はこれまで地域事業者とともに歩んできた。そんな地域事業者の「販路を拡大したい」「認知度を向上させたい」などのニーズに応



▲コラボした「小島組」のノベルティ

えようと、OKBはネットワークを生かした地域商社機能を発揮。事業者をマッチングし、両社のコラボ商品をアレンジしたり、ブランディングをサポートしたりしている。これまでアレンジした商品は、小島組（名古屋）のイメージキャラクターや船舶とコラボした



▲「アカパッくん」と「フェキくん」とのコラボ商品

岩本製菓（愛知県稲沢市）の「タマゴボーロ」や小笠原製粉（愛知県碧南市）の「キリマルラーメン」、恵川商事（名古屋）の「アカパッくん」と不易糊工業（大阪府八尾市）の「フェキくん」のコラボ商品など、多岐にわたる。

こうしたコラボ商品は、大手雑貨店やECサイトなど、さまざまな販路で販売されたり、事業者のノベルティとして活用されたりと、さまざま。OKBグループのネットワークを最大限活用し、事業者の課題解決に向けたサポートを通じて顧客の要望に応えている。これからも地域商社機能を存分に生かし、地域活性化に貢献していきたいと考えた。

# 大垣共立 私募債の充実

## 顧客ニーズに対応

大垣共立銀行は今年2月、OKB「SDGs私募債の取り扱いを開始した。格付投資情報センター（R&I）」の評価に基づいて事務委託手数料を優遇する私募債で、2017年から取り扱っている「拍手喝債」とともに、顧客のニーズに幅広く対応する。

# SDGs私募債

大垣共立銀行のSDGs私募債は、環境問題の解決に資する事業などに投資する顧客が、R&Iの評価を受け、その評価をもってOKBが発行時の事務委託手数料0.



扱いは、東海3県（岐阜県、愛知県、三重県）に本店を置く金融機関で初

2%を優遇するもの。R&Iの評価に基づいたSDGs私募債の取り

となる。OKBは同商品により、SDGsに取り組む顧客に対しても資金調達面から積極的にサ

ポートしていくという。

# 拍手喝債も

大垣共立銀行が201

# OKB 中部電力ミライズと食の商談会

大垣共立銀行は今年3月、中部電力ミライズと合同で、食の商談会「第



▲アバターロボットを使った商談の様子

1回 FOOD BUSINESS MEETING in BAUM HAUS（バウムハウス）を開催した。バウムハウスは、名古屋・米に同月開業した「食と未来がテーマの複合施設。1階にはバウムクーヘンなどの食の店舗が、2階にはシェアオフィスなど

が入っている。同商談会は、販路拡大や品質向上を目指す食品事業者向けに、食品衛生管理手法「HACCP」の無料相談会とともに開催。名古屋を代表する老舗百貨店と、星が丘テラスで食品を扱う小売店をバイヤーに迎え、サプライヤー企業14社が、対面形式でアバターロボットを使って商談した。

# 高校生のマスク製作をサポート

OKB



▲マスクを着用する土屋会長と生徒ら

大垣共立銀行は地域商社的一環で、愛知県立瑞陵高校（名古屋）の記念祭にあわせオリジナルマスク製作をサポートした。

発案は記念祭実行委員の生徒らで、生徒自身が社的取り組みの一環で、1200枚の製作が実現した。同企画の趣旨に賛同したOKBは昨年9月、連携を記念して同校へサポートリンクなどを寄贈した。

# OKB 総研

# FabCafe Nagoya 久屋大通公園にオープン

大垣共立銀行グループのOKB総研は昨年9月、ロフトワークとの共同出資により「FabCafe Nagoya（ファブカフェナゴヤ）」を久屋大通公園（名古屋）内にオープンした。



▲ FabCafe Nagoya

ファブカフェナゴヤは、レーザーカッターなどの工作機械が設置された「モノづくりカフェ」と、人と人がつながりアイデアを創造する「ブラットフォーム」の機能を持つ。そこで開催されるイベントなどを通じて顧客がコミュニティを拡大し、新たな発想を得ることを目的とする。OKB総研は、この場を通して顧客の新たな価値創造に伴走する構えだ。

# 東日本大震災から10年

## 手のひら認証で復興に貢献

大垣共立

10年前の2011年3月に発生した東日本大震災。大きな揺れ、巨大な津波、原発事故……。未曾有の甚大な被害をもたらした。その震災が契機となって翌年誕生したOKB大垣共立銀行の手のひら認証ATM「ピビット」は、手のひらだけでATM取引ができるサービス。今春には復興支援に貢献したいと、キャンペーンも実施した。



▲手のひら認証ATM「ピビット」

震災発生直後、大垣共立銀行は衛星通信を利用するATMを搭載した移動店舗「OKBレスキュー

号」を被災地へ派遣しようとした。しかし「せっかく来てもらっても、被災者は通帳もキャッシュカードも津波で流されてしまってお金が出せない」。被災地からの言葉に、OKBは派遣を断念せざるを得なかった。「通帳やキャッシュカードを必要とせず、身体ひとつで使えるATMを開発する」。土屋曉頭

取(当時)の指示で、「あなた自身がキャッシュカード」となるよう開発に着手。「災害時には身体ひとつで避難してほしい」との思いを胸に、試行錯誤のすえ震災発生の翌年、手のひら認証ATM「ピビット」が誕生した。全国初の取り組みであった。以降、口座開設や窓口取引なども「手のひらだ

け」で可能となり、「災害時の安心・安全」と「利便性」を両立させたOKBの看板サービス「手のひらソリューション」へと進化を遂げた。

### キャンペーン

大垣共立銀行は今年3月から6月にかけて、「OKB『15歳から君にできること』キャンペーン」を実施した。



同キャンペーンは、15歳から18歳の個人顧客を対象に、手のひら静脈情報の新規登録者数に応じ、東日本大震災で被災した子どもたちへ幅広い支援を行っている公益社団法人「ハタチ基金」へOKBが寄付を行うもの。震災から10年、復興支援だけでなく、「ピビット開発の思いや、ピビットを活用した災害時の対策を、今一度知ってほしい」というOKBの思いが込められている。

## OKB ホームページをリニューアル インターネット上の取引窓口として

大垣共立銀行は今年3月から、個人または個人事業主の顧客を対象に、残高1万円未満の預金口座を解約する際の届出印押印を不要とした。OKBではこれまで、手のひら認証の登録がある口座を除き、預金口座を解約する際は所定の書類に届出印の押印が必要だった。今回の押印不要

## 解約時「印鑑不要」に

大垣共立

残高1万円未満の口座

手続きにより、一定の条件を満たす場合、本人が来店し運転免許証などの本人確認書類を提示することで簡素に解約手続きが可能となり、顧客の利便性が向上する。

なお対象となる口座は、普通預金や総合口座、貯蓄預金、納税準備預金の残高1万円未満のもの。

## OKBアプリに追加機能 「お金との向き合い方」を提案



NEW!!

パーソナルレコメンドサービス



大垣共立銀行は今年6月、ポータルアプリ「OKBアプリ」に、パーソナルレコメンドサービス「LiFit(ライフィット)」の機能を追加した。これにより、同アプリから顧客へ最適な家計管理や資産形成の提案が可能となり、OKBと顧客の関係構築を加速させる狙いがある。

OKBアプリは2019年に誕生。アプリを立ち上げるとOKBの口座残高や入出金明細が一目で確認でき、OKB以外の銀行口座残高やクレジットカードの利用明細なども「一生通帳 by Moneytree」を通じて確認できる。顧客の利便性向上につながる、多くの利用者がいる同アプリ。20年には通帳形式で明細を表示す

る機能を追加した。ライフィットは、統計的アルゴリズムやAI(人工知能)を用いて、OKBの持つ取引データから顧客の消費パターンや資産状況を自動で分析。「お金の動きを「見える化」し、口座残高の低下予想アラートや家計節約のアドバイス、余剰資金を活用した資産形成の促進など、アプリ上で顧客一人ひとりに寄り添った「お金との向き合い方」を提案する。



▲OKBのホームページ

大垣共立銀行は昨年10月、ホームページを大幅にリニューアルし、見やすさ、分かりやすさを追求したデザインに刷新した。合わせてWEB上で本人確認ができる仕組みも導入し、ホームページから来店不要で預金口座の新規開設や住所・氏名などの届出事項変更手続きができる個人向けWEB受付サービスの取り扱

を開始した。また昨年11月には、個人向けインターネットバンキング「スーパーOKBダイレクト」の新規申込などを、今年3月には電気やガスなど公共料金の口座振替申込を、WEB上で完結できる仕組みを構築した。OKBはホームページを「インターネット上の取引窓口」と位置づけることで、今後さらに増加するであろう非対面チャネルの利用希望者にとって、利便性の高いサービスを提供していきたいという。



OKB 大垣共立銀行 ホームページ

# 障がいのある作家をサポート 現金封筒がアート展に

大垣共立

OKB大垣共立銀行は昨年10月から、現金封筒の表面をキャンバスに見立て、そこに障がいのある作家の作品を掲載する「障がい者アート展」を開催している。障がい者の社会参加の助けになろうと、地域とともに誰もが生き生きと活躍できる社会づくりに貢献していきたい構えだ。



▲障がい者アート現金封筒

障がい者アート展「OKBギャラリーtom oniaート展」は昨年

9月、大垣共立銀行と岐阜県教育文化財団(岐阜市)が「障がい者の芸術文化活動支援における相互連携に関する協定」を締結したことがきっかけで開催。同協定は、絵画などの芸術活動に取り組み障がいのある作家の活躍する場を提供するもので、第一弾連携事業としてこの展覧会が始まった。仕組みは、OKBが通常自社の広告スペースとして活用している封筒表面に障がいのある作家の作品を掲載することも、封筒裏面の企業広告主からその作品使用料を収受し、全額を作家に支払うというもの。同財団の「岐阜県障がい者芸術



▲岐阜県教育文化財団との協定締結式の様子



▲あいちアール・ブリュットネットワークセンターとの協定締結式の様子

文化支援センター」の紹介により、当初10作品が集まった。

今年4月には、愛知県で障がい者の芸術文化活動の普及サポートに取り組む「あいちアール・ブリュットネットワークセンター」を運営する社会福祉法人楽笑(愛知県蒲郡市)と同様の協定を締結。現金封筒に掲載する

金など各種金融支援策の事業者への周知や、それに関するセミナーの開催

などを実施し、地域産業振興や地方創生に取り組んでいく。

# 地方創生へ自治体と連携

## OKB×OKB総研×大野町

## 岡崎市とも



▲(左から)頭取、宇佐美 大野町長、OKB総研 五藤社長

大垣共立銀行とOKB総研は昨年9月、岐阜県大野町と「地方創生とSDGsの推進に関する連携協定」を締結した。同協定はSDGs(持続可能な開発目標)への

取り組みを原動力に、三者が連携して大野町の新たな地域活力を創出することが目的。同町が進める子育てや移住定住促進、産業活性化といった分野の計画策定にOKBとOKB総研が参画し、さまざまな資源や情報を有効活用することで住みやすい町づくりに反映させる。なお、OKBがSDGsを取り入れた協定を自治体と結ぶのは初。



▲(左から)頭取、中根 岡崎市長

大垣共立銀行は今年4月、愛知県岡崎市と「地域産業の振興に関する連携協定」を締結した。両者で連携し、地域の中小規模事業者や創業を目指す事業者をサポートする。OKBは融資・助成

## 交通マナーを分かりやすく

## OKB 交通安全、防災を啓蒙



▲交通安全小冊子

大垣共立銀行は今年3月、愛知県内の新小学1年生に交通安全小冊子「よいこのこうちゅうあんぜん」を寄贈した。2012年度から実施し、今回で10回目。交通安全の啓蒙活動の一環として、愛知県警と愛知県交通安

全協会の協力を得て制作。行動範囲が広がる新小学1年生に交通マナーなどを学んでもらおうと、踏切の正しい渡り方などをイラスト付きで紹介している。同冊子は、愛知県内全ての小学校1年生約7万人に配布された。

## 災害時に安心安全を

大垣共立銀行は今年4月、家庭での防災対策をまとめたイラスト付きの防災小冊子「おうちできちんとぼうさい」の電子版を発売した。OKBは大垣女子短期大学の協力を得て、紙媒体の同冊子を制作し、2015年度から岐阜県を通じて県内の全小学校新入学児童へ配布してきた。今回は電子版として県と協力し制作。OKBと県のホームページに掲載することで、より幅広い人に見てもらいたいと考えた。



▲防災小冊子電子版

# OKB5が活躍

## CMなどでOKBをPR

昨年4月に誕生した、「SKE48」のメンバー5人からなる大垣共立銀行の広告宣伝ユニット「OKB5」。コロナ禍で

▼OKB5が登場するテレビCM



OKBや地域のイベントへの出演は限定的になっているが、活動の幅が広がってきている。

昨年11月、テレビやラジオ各局でCM放送が開かれた。特にOKBのCMでおなじみの曲に合わせて5人が踊る振り付けは話題となり、SNS(ソーシャル・ネットワーク・サービス)にもキング・サービスにも投稿されている。

## ユーチューブでも

昨年12月には、動画投稿

を公開した。OKBは大垣女子短期大学の協力を得て、紙媒体の同冊子を制作し、2015年度から岐阜県を通じて県内の全小学校新入学児童へ配布してきた。今回は電子版として県と協力し制作。OKBと県のホームページに掲載することで、より幅広い人に見てもらいたいと考えた。

▲防災小冊子電子版



# 銀行はサービス業

昨年11月、74歳で亡くなったOKB大垣共立銀行の土屋嶋会長。「銀行はサービス業」や「脱・銀行」を掲げ、全国初のサービスを次々と展開した。世間を驚かすような数々のアイデアを生み出してきたのは、「地域とともに」、「お客さま目線」の思いがあつてこそ。その思いはOKBのDNAとなっている。

## 土屋会長とOKBの軌跡

1977年	OKB入社
82年	預金残高1兆円達成
93年	取締役頭取
94年	「エブリデーバンキング」開始★
95年	「サンクスポイント・プレゼント」開始★
96年	創立100周年
98年	「エブリデープラザ岐阜出張所」開設★
2000年	「ひだ1号(現:OKBスーパーひだ1号)」運行開始★ 「ドライブスルーATM」設置★
02年	ポイントカード方式の株主優待制度導入★
04年	「日経金融機関ランキング」顧客満足度評価」全国ベスト10にランクイン ※以降、14回連続でベスト10にランクイン
05年	「ATMスロットゲームサービス」開始★ ※以降、「ルーレット」「サイコロ」「スマートボール」ゲームサービスも開始 週刊ダイヤモンド「つきあいたい銀行ランキング」1位
07年	「CM付ATM」導入★ 離婚関連専用ローン「Re」取扱開始★
09年	「ハイ・サービス日本300選」選出
12年	「手のひら認証ATM「ピビット」」導入★
13年	「ドライブスルーながくて出張所」開設★
15年	岐阜県指定金融機関業務開始
17年	預金残高5兆円達成
18年	「第2回 日本サービス大賞 地方創生大臣賞」受賞 「ワールズ・ベスト・バンクスランキング」国内1位
19年	取締役会長 「第35回 企業広報賞 企業広報経営者賞」受賞

(★は、全国初あるいは全国金融機関初、国内金融機関初の取り組み)

## 土屋会長の軌跡



▲頭取就任祝賀会

土屋嶋会長は1977年に入社し、93年に全国の地方銀行で最年少(当時)の46歳で頭取に就任した。その後26年間、頭取として大垣共立銀行の陣頭指揮をとってきた。

「銀行の名前を変えてほしい」。土屋会長が頭取に就任したばかりのころ、若手社員からこう言われた。「名前が長すぎる」、「愛知県では大垣の地名は浸透していない」などの理由からだ。しかし、地域に根ざした銀行として「大垣」の名前は消せない。土屋会長は「社名ではなくイメージを変えていこう」と、徹底した顧客目線を追求。サービス業への道を歩みだした。

その後、多くの「全国金融機関初」のサービスなどを打ち出してきたが、それ以外にも地方創生の一環でOKBブランドを展開するなど、常識にとられないアイデアは金融サービスの枠を超えていた。土屋会長、そしてOKBは常に「地域」とともに歩み、それは土屋会長が亡くなった今でも変わることなくOKBのDNAとして受け継が

## もうひとつの顔

作曲家「つちや たかし」

大垣共立銀行の代表取締役以外に、土屋嶋会長には作曲家「つちや たかし」としての顔があった。作詞した曲は、OKBのイメージ曲以外に岐阜清流高等特別支援学校の校歌など全部で10曲。土屋会長自ら取材に赴き、聞いたことや感じた内容を

大垣共立銀行の代表取締役以外に、土屋嶋会長には作曲家「つちや たかし」としての顔があった。作詞した曲は、OKBのイメージ曲以外に岐阜清流高等特別支援学校の校歌など全部で10曲。土屋会長自ら取材に赴き、聞いたことや感じた内容を



「『つちや』はOKBって銀行もやってたんだね」と言われた。土屋会長は生前こう話していた。それを実現するために、これからもOKBはサービス業として突き進んでいく。



▲「ピビット」誕生セレモニーの様子

## お別れの会

### 土屋会長の歩みたどる

昨年12月、大垣フォーラムホテルで大垣共立銀行土屋嶋会長の「お別れの会」が営まれ、地元政財界をはじめ関係者や市民ら約3800人が訪れた。献花会場では、土屋会長と生前親交のあった和太鼓奏者の加藤拓三さんの力強い演奏が響く中、参会者が絶え間なく



▲献花する参会者

今年3月に行われた同校の卒業式では、当初コロナ禍のため校歌は「心の中で合唱」する予定だったが、いざ流れると生徒は自然と口ずさんだという。

土屋会長をしのぶ展覧会 OKBギャラリーおおがき 今年1月から3月まで、大垣共立銀行大垣駅前支店西隣の「OKBギャラリーおおがき」で、土屋嶋会長をしのんだ展覧会が開催された。



▲展覧会の様子

土屋会長。同展覧会には、そんな土屋会長の地域の住民らとしてのびたいと開催し、OKBの土屋名譽会長など土屋会長とゆかりのある作家の作品などを展示した。

# 大垣共立 独自の地方創生 「OKBブランド」

OKB大垣共立銀行が展開する「Ogaki Kyoritsu Bank」の頭文字「OKB」を冠したOKBブランド。独自の地方創生の取り組みとして地域を彩る施設や商品、サービスが認定されており、その数は約190にもなっている。

## 移動販売車

「いらっしゃいませ！新鮮な野菜はいかがですか」。昨年11月、「食べる」「買う」「楽しむ」をコンセプトに大垣郭町商店街一帯で開催された複合市場イベント「OKBストリートマルシェ」。ここでは、移動販売車「OKBどこでもマルシェ」の前で商品を来場客に売り出すスタッフの元気な声が聞こえた。袋いっぱい野菜を買い求める来場客の姿も目立った。

「OKBどこでもマルシェ」はOKB農場や岐阜県産の野菜、OKB八百屋本店の商品などを販売する移動販売車として昨年9月に誕生。お披露目は「OKBプラタノン高蔵寺」開店セレモニーだった。大垣共立銀行パートナー会社の正和商事が運営し、OKBが命名権を取得したものだ。

## キッチンカーも

「OKBどこでもマルシェ」と同日に誕生したのは、キッチンカー「OKBキッチンバス」。大判焼きやかき氷、カレーなど季節によってラインナップを変えて販売する。「OKBどこでもマルシェ」と同じく正和商事が運営し、OKBが命名権を取得したものだ。誕生以降、両車はOKBや地域のイベントに出店している。今後も地域のにぎわい創出やOKBのPRにつなげていく構えだ。



▲OKBストリートマルシェでの販売の様子

# OKB農場産品を使った新商品

2015年に地元企業が運営する農場の命名権を取得して開場した「OKB農場」。大垣共立銀行グループのOKB総研が運営指導を行い、OKBグループと一体となって六次産業化にも積極的に取り組んでいる。そんなOKB農場の産品を使った新商品が存在感を高めている。

## カモミールティー



▲OKB カモミールティー

「心地よい香りのお茶でホッとひと息ついてほしい」。そんな思いを込めたハーブティー「OKBカモミールティー」が昨年8月に誕生した。大垣市郭町のKitchenビル地下1階にあるOKB八百屋本店（運営は土里夢ファーム）で販売されているほか、OKB総研が運営に携わり、昨年9月に名古屋市の久屋大通公園内にオープンした



▲OKB どこでもマルシェ ▲OKB キッチンバス

## プレミアムな飲料水登場 ブルーベリー果汁を使用

昨年8月、ブルーベリー果汁を使用した清涼飲料水「Very Berry water」（ベリーベリーウォーター）と炭酸飲料水「Very Berry squash」（ベリーベリースカッシュ）が、「OKB PREMIUM DRINK」として新たにOKBブランドに加わった。ベリーベリーウォーターは程良い甘さですっきりといて飲みやすさく、ベリーベリースカッシュは炭酸の爽快感の中に芳醇な香りがするのが特徴だ。2つとも農薬や化学肥料を使わずに育てられた「OKB農場Berry's farm池田産のブルーベリー果汁を使用している。大垣共立銀行パートナー会社の大垣正和サ-



▲Very Berry squash



▲Very Berry water

OKB農場で収穫された米「ハツシモ」を50%配合した「OKOMEのGaufrettes」が今年4月、包装デザインをリニューアルした。新しい包装デザインは以前の力強い印象から一転、色鮮やかでシンプルな印象を受ける。バニラ味と抹茶味の2種類。OKBストリートにあるOKBショップで販売されている。問い合わせは運営会社の大垣正和サビス（05884・78・6477）。



▲OKOMEのGaufrettes

## 米のゴーフレット リニューアル



## OKBブランド